



P R E S S R E L E A S E

国内全製造拠点でカーボンニュートラルを達成

2026 年 7 月 17 日

- 2025年に国内全生産拠点でカーボンニュートラルを達成

三菱ふそうトラック・バス株式会社（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長・CEO：フランツィスカ・クスmano、以下 MFTBC）は、2025年に日本国内の全製造拠点においてカーボンニュートラル*を達成したことをお知らせします。

*CO₂換算（CO₂e）で算定した温室効果ガスの排出量について、排出削減、吸収・除去、およびオフセットにより、正味の排出量を実質的にゼロとする状態

MFTBC の国内製造拠点は、トラック車両および産業用エンジン等を製造する川崎製作所（神奈川県川崎市）、トランスミッション等を生産する中津工場（神奈川県愛甲郡）、バス車両の製造を担う三菱ふそうバス製造株式会社（本社：富山県富山市、代表取締役社長：藤岡佳一郎、以下「MFBM」）、および架装メーカーである株式会社パブコ（本社：神奈川県海老名市、代表取締役社長：秋山健）の4つの生産拠点です。これらすべての生産拠点でカーボンニュートラル化を実現しました。

MFTBC は、生産ネットワーク全体における CO₂排出量削減に向けた取り組みを継続的に推進してきました。主な施策として、国内生産拠点で使用する電力の再生可能エネルギー由来化、自家消費型太陽光発電設備の導入、ならびに製造工程における各種省エネルギー施策を実施するなど、生産活動に伴う CO₂排出量の大幅な削減を実現するとともに、各拠点における環境性能のさらなる向上を図ってきました。

これらの活動は、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO 14001*」およびエネルギーマネジメントシステムの国際規格「ISO 50001*」によって支えられています。両マネジメントシステムを通じて、生産活動全体における環境性能の継続的な向上、エネルギー効率の向上、資源の有効かつ責任ある利用を推進してきました。

*ISO 14001および ISO 50001は、国際標準化機構（ISO）が策定した国際的なマネジメントシステム規格です。ISO 14001は企業活動全体の環境影響を管理するための包括的な枠組みを提供する一方、ISO 50001はエネルギー性能およびエネルギー効率の向上に特化した規格です。

MFTBC は、2025年暦年および2026年第1四半期におけるカーボンニュートラル化の達成に向けて、CO₂排出量削減施策に加え、カーボンクレジットを調達しました。カーボンニュートラルはバランスシート上で達成されており、まず排出量削減に取り組んだうえで、削減が困難な残余の温室効果ガス排出量(CO₂e*)については、認証済みカーボンクレジットによって相殺しています。

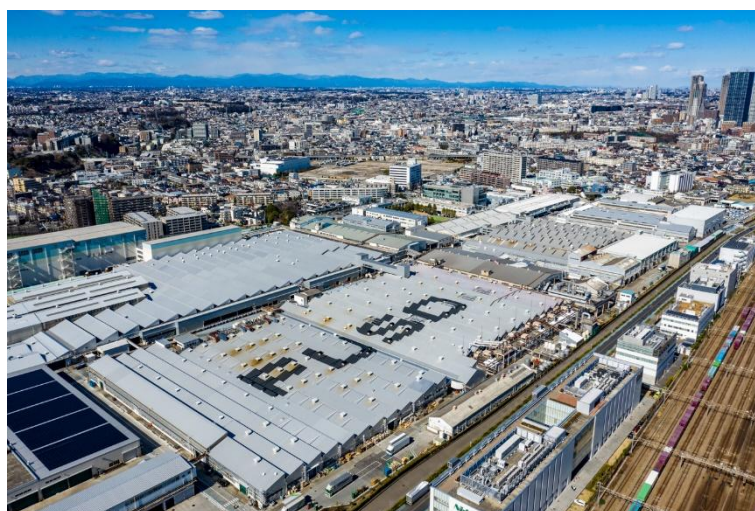
*CO₂およびその他の温室効果ガスを地球温暖化係数に基づき CO₂換算したもの

さらに、2026年4月以降も、CO₂排出量削減活動を通じて、カーボンニュートラル化の維持を図っていきます。

MFTBC は、持続可能な生産活動およびゼロエミッション車両の開発を通じて、脱炭素社会の実現に貢献しています。また、ライフサイクルアセスメントや持続可能な素材戦略などの取り組みを通じて、当社のビジョンに基づいて「人と地球により良い生活と環境を実現」することを目指します。

【国内外での主な活動内容】

～2021年	川崎製作所および中津工場で CO ₂ 排出量を2015年比で20%以上削減
2022年	川崎製作所内に約14,000㎡の自家消費型太陽光発電パネルを増設
	川崎製作所および中津工場での全調達電力を再生可能エネルギー由来に切り替え
	欧州向け小型トラック生産拠点であるトラマガル工場(ポルトガル)がカーボンニュートラルを達成
2023年	MFBM が100%実質再生エネルギーによる操業開始
2025年	日本国内の全生産拠点においてカーボンニュートラルを達成



【川崎製作所】



【中津工場】



【MFBM】



【パプコ相模工場】

三菱ふそうトラック・バス株式会社について

三菱ふそうトラック・バス株式会社（MFTBC）は、ARCHION グループを構成する企業として、商用車を開発・製造し、世界約170の国と地域へ製品とサービスを提供しています。日本とポルトガルの生産拠点を軸に幅広いラインアップを展開し、商用車の電動化や安全技術の開発に取り組んでいます。MFTBC は ARCHION とともに持続可能なモビリティに貢献していきます。